

8月28日

主教教会博士オーガスチン

Aurelius Augustinus

(354~430)

~西洋古代最大の教父~

<人名事典などでの別表記：ヒッポのアウグスティヌス>

オーガスチンは、当時ローマ帝国の属州であった北アフリカのタガステ（現在のチュニジア）で生まれました。父はパトリキウス、そして母は日本聖公会では5月4日に小祝日として覚えているモニカです。

オーガスチンは文法学や修辞学を学んでいきます。その間、彼は自由奔放な生活をし、そしてキリスト教から離れていきました。マニ教という異端の宗教にのめり込むようになります。

しかしマニ教と出会って9年がたっても、心の平安を見つけることができず、次第にマニ教からも距離をおきます。

オーガスチンのキリスト教への回心に関して、母モニカの祈りは有名ですが、彼が回心をする前、彼の心の中に不道德な欲望が現れたことがありました。しかしその時、彼の心の中には同時に、立派な婦人とたくさんの善良な人々が現れたそうです。そしてその婦人は彼にこう言いました。

「この人たちにできることが、あなたに出来ないことがあろうか」。

そして彼は聖書を開く決心をし、そこにあるパウロの言葉を読んで回心し、ミラノの主教アンブロシウスによって洗礼を授かったと



「ヒッポの
アウグスティヌス」

フィリップ・ド・シャンパーニュ

17世紀

伝えられています。

キリスト教に回心した彼は、母モニカの死後故郷ヒッポに戻り、まわりの信徒たちのなかば強制的な推薦により司祭に、そして司教になって、35年間、その地域の人々を司牧しました。

その後もオーガスチンは教会の牧師、また神学者として、マニ教批判やアカデミアの反駁、ドナートゥス派やペラギウス主義者との論争をし、そして多くの著作を残しました。その中には自伝的性格をもつ「告白」(confessiones)や歴史哲学書ともいえるべき「神の国」(De civitate Dei)などがあります。

彼はギリシア哲学とキリスト教とを総合させ、独自の神学をつくりあげました。また多様な主題に取り組み、「西洋の教師」とも呼ばれています。

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士オーガスチンの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン